

質疑	官民合同チームによる行財政改革の推進は <u>これまで行ってきた行革とどう違うのか、市長の見解を伺う。</u>
答弁	<p>北九州市では平成26年度以降、行財政改革大綱を策定し、簡素で活力のある市役所の構築、外郭団体の改革など4つの柱を掲げ、絶え間なく行財政改革に取り組んで参りました。</p> <p>こうした取組を経て、簡素で活力ある市役所の構築に向けた組織編成や給与手当の適正化、外郭団体の整理統合、民間にできることは民間に委ねるなど、不断の取組を行った結果、直近の実績となる令和3年度までの7年間で961項目、約437億円の効果をあげており、一定の成果をあげてきたものと考えているところでございます。</p> <p>しかしながら、北九州市の持つポテンシャルを最大発揮させ、人、企業から選ばれる稼げるまちにし、成長させていくためには、<u>新たな行財政改革を行い、社会の変化に柔軟かつ機動的に対応できる基盤をしっかりと作っていく必要がある</u>と考えているところでございます。</p> <p>このため、<u>今までとは異なる新しい視点、新しい手法によって単に予算を削減するだけではなく、市政運営そのものの変革に繋げることを目標としている</u>ところでございます。</p> <p><u>これを市政変革と呼んでおりまして、こうした考え方について、今後の議論の発端とするため、先月公表した基本方針たたき台において、議会にご報告の上、既に公表したところ</u>でございます。</p> <p>この市政変革では、<u>今までの行政視点の取組に加えまして、民間目線を入れた新たな手法を取り入れる必要がある</u>と考え、<u>行財政改革の推進を担う民間人材2名を市職員として採用し、官民合同チームを立ち上げるとともに、新たな推進組織である市政変革推進室の新設</u>について、条例案を提出させていただいているところでございます。</p> <p>また、<u>基本方針たたき台でお示した目指す方向性に沿って、約3,000事業に及ぶ全ての予算事務事業の棚卸しを行った上で、政策分野のまとまり毎に分類し、経営分析の手法により、現状・課題の整理や改革案の検証、今後の見直しの検討などを進めることを想定</u>しております。</p> <p>こうした取組を進めることにより、<u>各担当部署が自主的・自律的に経営判断と事業実施を行い、今後策定する新たな北九州市のビジョンの実現に向けて、多様化する市民ニーズや社会変化に柔軟に対応する仕組みづくりを行うこと</u>としております。</p> <p>このようにこれまでの行財政改革の取組とは違った進め方になるものと認識しているところでございます。</p>

北九州市議会答弁（令和5年6月：抜粋2）

令和5年6月8日

質疑	ビジネス的な経営分析に偏った場合、数値化しにくい事業に対する市民満足度や潜在的なニーズを見落とす可能性があるのではないか。さらに、住民の福祉向上のために行っている事業がどのように評価されるのか、特にK P I等の評価基準をどう設定するのか危惧しているが、見解を伺う。
答弁	<p>今回の市政変革では、約3,000事業に及ぶ予算事務事業の棚卸しを行うこととしており、各事業の課題や目標を明確化するとともに、課題を時間軸に仕分け、短期で取り組めるものについては、速やかに事業見直しを行うこととしている。</p> <p>また、<u>政策分野のまとまりごとに分類し、経営分析の手法により、現状、課題の整理や改革案の検証、今後の見直し案の検討などを行うこととしている。</u></p> <p><u>これらの取組を通じて、事業ごとにK P Iを設定し、事業の目的や必要性を明確化させるとともに、各担当部署が自主的・自律的に経営判断と事業実施を行うガバナンスメカニズムの構築を目指しているところである。</u></p> <p>議員指摘の住民福祉向上のために行っている事業などについては、効率性や生産性、費用対効果などの視点だけで評価していくことは想定していない。先日示した北九州市政変革の基本方針たたき台においても、<u>市民ニーズや社会経済情勢の変化に対応できているのか、他の政策との重複はないか、DXの導入可能性はないか、官民の役割分担は適切か、公民連携の可能性はないか、などの視点を設けており、様々な視点で精査していくことにしている。</u>各事業の目的や性質は様々であることから、事業の性質等に応じて、その分析、評価の方法も工夫しながら実施してまいりたい。</p> <p><u>今回の市政変革の取組は、単に予算を削減するだけでなく、市民満足度の向上や潜在的なニーズを引き出していくような市政運営そのものの変革につなげ、新たな北九州市のビジョンを実現していく上での基盤づくりにスピード感を持って取り組んでいく。</u></p>